

TMニュース No.6

R2.12.4. TM部

11月は、学年毎のTMミーティングで学習状況や入試対応の状況把握と、1・2年生を対象として、最新の医学研究の動向や研究者への道筋といったキャリア講演会を実施しました。3年生についてはNo.5で報告しましたので、今回は1・2年生のミーティングの様子をお知らせします。

11月10日(火) 2年生 15名

11月12日(木) 1年生 31名



に、ベネッセの友澤氏においでいただき、1・2年生の2回目のスタディサポートの分析結果についてお話いただきました。

2年生は、1回目の分析会はオンラインで実施したため、直接にお話を聞くのは今年初めてとなります。試験の目的をしっかりと理解して振り返りをすることが大切であること。スタサポは基礎学力が定着しているかどうかを見るものなので、全体としてできは良かったが、何が弱いのかという現状をしっかりと把握して学習に生かすことが大切であるというお話をいただきました。

1年生も全体的に良くできていたということでした。1年生には分析表の見方についてお話いただくとともに、特に本校生徒のつまづきが多かった問題の解説とそれぞれが自分の現状をデータできちんと分析して、今後の学習に生かすことをアドバイスされました。

11月19日(木) 1年30名 2年10名

11月19日(木)、1・2年生を対象にしたTMミーティングが行われました。東京都総合医学研究所から再生医療研究のプロジェクトリーダーである宮岡佑一郎氏をお招きし、「iPS細胞のゲノム編集による疾患の治療法の開発と研究者の実態」というテーマでお話いただきました。



を発生初期のり、このiPSきるようになっても選ばれた(ゲノム)の塩基配列を狙い通りに改変する技術です。このiPS細胞技術とゲノム編集技術を組み合わせることにより様々な遺伝性疾患の研究や治療への応用が期待されているとのことでした。

さらに、研究者としての面白さや大変さ、そこに至るまでには時間がかかり、自分の研究室を持つことがやりたい研究をするには必要であることなどを話していただきました。

